

臨時増刊

まるごと一冊 名古屋特集

2008.5.21 600yen
www.toyokezai.net

週刊 東洋経済 NAGOYA

2008

テクノロジー
&
ビジネス

名古屋の 実力

環境技術でも先行する名古屋カンパニー
地元経済3団体トップ鼎談
ストイコビッチ・名古屋グランパス監督インタビュー



ジェトロ名古屋貿易情報センター・松本裕樹所長に聞く

ジェトロ（独立行政法人 日本貿易振興機構）は国内36事務所、海外54カ国に73の事務所があるが、名古屋事務所の仕事で目立った特長といったものは。

ジェトロは、対日投資、輸出促進、そして産業協力という三つの事業が柱で、国内の大都市すべてに情報センターがある。これら他の事務所と比較すると、名古屋は圧倒的に「対日投資事業」が活発な地域だ。04年に積極的に活動を開始するようになってから、今まで外国企業50社に対して、名古屋やその周辺に現地法人を設立するお手伝いをしてきた。愛知県は、昔から海外との取引が活発な地域だが、最近はジェトロの海外事務所を利用して、これまで取引のなかった未知の国に関する調査依頼が増えているのも大きな変化と言っている。世界を相手にしてきた愛知県は、そのグローバル傾向をさらに拡大している。

日本企業が海外に進出する際の注意点は。



ジェトロ名古屋貿易情報センター
松本裕樹所長

日本企業の弱点として目立つのは、著作権や商標などの権利関係で、危機管理意識が薄いという点だ。海外進出の際にはもちろんだが、たとえば自社の製品を海外で販売していない場合でも、いつの間にか技術やデザインが盗まれていることがある。これはあまり知られていないようだが、ジェトロには海外での侵害・違法行為の摘発・差し止めをジェトロの海外の現地事務所を使って行うサービスというのがある。しかも、かかった費用の最大3分の2まで補助するというものなので、ぜひ利用してほしいと思う。

名古屋事務所が今後の課題として考えていることは。

今後重要になるのは、海外からの参入者が、現地のビジネスコミュニティやパイプを作るためのチャンネルやネットワークの構築だろう。知名度のない外資系企業が情報網の中心である経済団体やグループ企業のサークルに入るのは難しいことだ。せっかく日本オフィスを作っても、あるいはすばらしい技術を持ってきても、情報不足でそこから先に進めないようではいけない。現状を皆で改善するよう考えなくてはならない。いずれにしても、これからの名古屋におけるジェトロの役割はますます大きくなると思う。

ポディコート・ジャパン

イギリス

1923年設立の熱処理受託加工のリーディングカンパニー。本社は英国。従業員は世界35カ国に1万1000人以上。アジア進出は2005年からで、名古屋の日本法人は08年3月に設立したばかり。日本での工場設立を目指す。

人の妻とも日本語で会話。ナゴヤ弁も混じる。ポディコート社が日本にやってきたとき、それまでの塗料関係企業を辞め「今の職」に転じた。



代表取締役
ジュリアン・ベイショアさん

日本法人の代表取締役ジュリアン・ベイショアさんは米国カリフォルニア州の出身。「日本には足かけ10年です」と「足かけ」というあたり日本語が上手などというレベルではない。PRのためと続けるプログラムはすべて日本語。自分で書く。「スタンフォード大の留学プログラムで京都に住みました。アメリカの企業に就職し98年に転勤で名古屋に来ました」。が、本当は東京希望だったという。「結果的にですが、今の私があるのは名古屋に来たからなんです。東京に住んでいたら日本語はここまで上達しなかっただろうし、今の職についていなかったかも」。

この地域に溶け込むすべとして日本語での会話は不可欠だった。日本

「日本法人設立ではジェトロにお世話になりました。BSCに準備オフィスが置けたことでスムーズに実務が進み、さまざまな情報も得られました。ジェトロを含め愛知県は外国企業の受け入れ態勢ができています。この10年、不況知らずで過ごせた名古屋は活気のある街。日本をよく知らない外国人は「Tokyo Centric」（東京中心主義）という発想しかないが、これからは「Nagoya Centric」、ビジネスに便利な名古屋にもっと目を向けるべきです。力のあるグローバル企業を呼び込み、東京を超える都市にしたい」と意気込む。

が、一方では人材が薄いと嘆く。そのためSNSでオフ会にも顔を出し精神的に人脈開拓。名古屋で暮らす外国人たちとはガイジンBARではなく赤ちょうちんで情報交換。コネづくりにも精を出す。